

しょうせんじ
正泉寺遺跡

現地説明会資料

（一財）長野県文化振興事業団
長野県埋蔵文化財センター

遺跡の概要

正泉寺遺跡は土曾川左岸の微高地上に立地する遺跡です。土曾川をはさんだ対岸にはママ下遺跡や西浦遺跡、南西の国道153号付近には五郎田遺跡が分布しています。このように正泉寺遺跡の周辺には、多くの集落遺跡があることが分かっており、縄文時代から平安時代まで、幅広い時代で生活が営まれていた場所であるといえます。

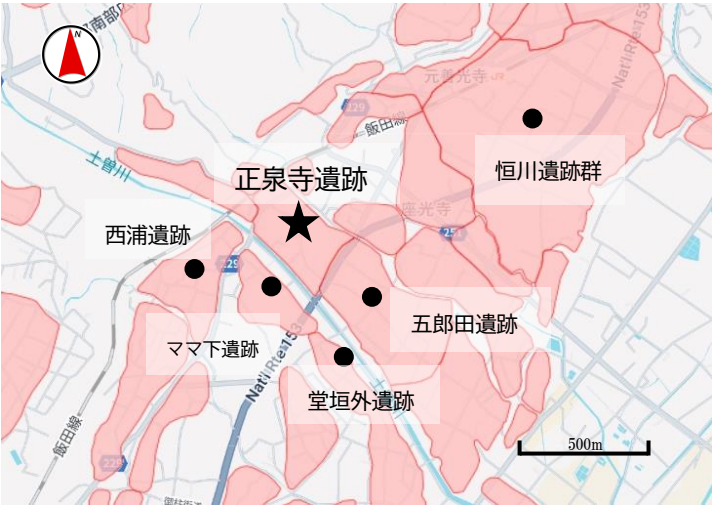
座光寺スマートインターチェンジと国道153号を結ぶ座光寺上郷道路建設に伴い、当センターが令和6年度より発掘調査を行っており、今年で2年目の調査となります。

調査の概要

OR7年度の調査

- 遺構
 - 竪穴建物跡80軒（古墳～平安時代）
 - 竪穴状遺構1軒（時代不明）
 - 掘立柱建物跡1棟（時代不明）
 - 土坑110基（縄文時代・平安時代）
 - 溝跡3条（時代不明）

- 出土遺物
 - 土器…縄文土器（中期）
 - 弥生土器（後期か）
 - 土師器・須恵器・灰釉陶器（古墳時代～平安時代）
 - 石器…打製石斧・石鏃・砥石
 - 金属製品…鉄斧・鉄鎌・鉄鏃・紡錘車



正泉寺遺跡位置図

（飯田市埋蔵文化財包蔵地地図に加筆）



正泉寺遺跡全景（東側から撮影）

各区のみどころ（裏面：遺構配置図参照）

◎5区

5区では竪穴建物跡が2軒、竪穴状遺構が1軒、掘立柱建物跡が1棟、土坑が25基みつけられました。

○竪穴建物跡 SB132

方形の竪穴建物跡です。調査区外へ広がっているため正確な大きさはわかりませんが、1辺4m程度と推測されます。壁などは後世に削られてしまったため、床面だけがみつけられました。また少量ですが、土師器など古代の土器が出土しています。

○竪穴状遺構 SB133

3.1m×2.6mの方形の竪穴状遺構です。竪穴状遺構の壁より外側に上屋を支えていたと想定される柱穴が5つみつけられました。また、一般的な竪穴建物跡と比較してもやや小さめのサイズで、カマドもみつかっていないことから、倉庫のような役割を果たしていた建物跡ではないかと考えています。

○掘立柱建物 ST02

南北方向に1間、東西方向に2間と考えられる掘立柱建物跡です。柱穴から少量の遺物が出土していますが、詳細な時期は不明です。

○土坑 SK256

2.5m×1mの不整楕円形の土坑です。周辺にも多くの土坑がみつっていますが、その中でも一番大きなものになります。用途についてはわかりませんが、この土坑の検出時に縄文時代中期中葉の土器が数片出土していることから、縄文時代中期中葉ごろ（現在より約4500年前）の土坑と考えられます。

◎7区（7区は足元が悪いため、写真パネル・遺物のみ展示となります）

7区は古墳～平安時代の竪穴建物跡70軒、同時代の土坑が約70基みつけられました。なかにはカマドがはっきりと残っている竪穴建物跡もみついています。

○竪穴建物跡 SB84

1辺4.2mほどの正方形の竪穴建物跡です。コーナー付近の床面から、完全な形の耳皿や小形の皿が5点出土しました。耳皿は箸置きとしての用途などが考えられています。遺物より平安時代（今から1000年ほど前）の遺構と考えられます。またこの竪穴建物跡の下面から新たに別の建物跡が2軒みつっており、同じ場所で3回建物が建て替えられたことが分かりました。

○竪穴建物跡 SB93

方形の竪穴建物跡です。調査区外へ広がっているため正確な大きさはわかりませんが、1辺4m～5m程度と推測しています。この竪穴建物跡の北西壁際にはカマドが設置されていました。カマドは家の廃絶と共に壊されてしまう事が大半ですが、袖石・支脚石が残り、赤く焼けた火床もみつけられました。またこのカマドの内部や周囲からは土師器の甕や壺など多くの土器が出土しました。これらの遺物から平安時代中頃以降（今から約1,100年前）の竪穴建物跡と考えられます。



足元の悪い箇所もありますので見学の際には、怪我のないようご注意ください。
説明会の様子はホームページで公開しますので、御承知ください。



竪穴建物跡 (SB93)



土師器 壺



竪穴状遺構 (SB133)



竪穴建物跡 (SB129)



鉄鎌出土状況



竪穴建物跡 (SB84)



土師器皿・耳皿出土状況



土坑(SK256) 出土縄文土器

